

### 河床構造

水生昆虫や魚類にとっては、河床の礫間などにできたすき間は、生息する上で重要な構造である。巨石や砂礫などによる多様な河床構造がみられる河川には、多くの生物が生息している。



### ●河床や川岸の重要性

自然の川には瀬や淵があり、河床には地形や勾配、流速や流量に応じた堆積環境がみられます。こうした変化に富んだ構造をもつ河床は、多様な生きもの生息空間となっています。特に流れの速い場所に生息する魚類にとって、河床の岩などは遊泳中に流されないよう逃げ込むことのできる隠れ場所となります。また、水辺から陸域にかけての移行帯の自然性の高さもこれらの生物にとって重要です。



ギバチは石の間などに生息している。



ツチフキは砂地の河底に生息している。



遊泳魚であるオイカワは、平瀬の砂礫地を産卵場所として利用する。

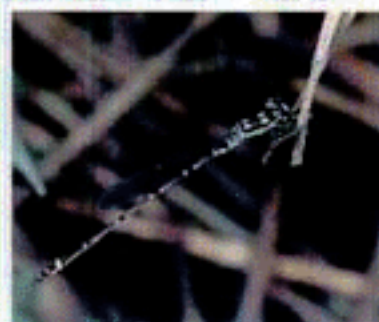
### ●高水敷の環境の重要性と 代償措置の例

河川の流路うち、通常は冠水せず年に3~5度の洪水によって浸るところを高水敷と呼びます。高水敷は現在、グラウンドなど様々に利用されていますが、良好な自然を残している高水敷を生物の生息地として位置づけた河川管理を行うことで、質の高い地域の自然を保全・復元・創出することができます。

埼玉県八潮市を流れる中川の右岸側に残された約5haのヨシ原では、レッドリストで絶滅危惧1類に指定されているヒヌマイトトンボが確認されています。しかし、同地では河川の拡幅工事や橋梁の建設が予定されており、ヨシ原の一部が消失することになります。そこで建設省江戸川工事事務所では、やむを得ず生息地の一部が失われる代償措置として、隣接する高水敷においてヨシ原を保護拡大することにしました。現在、約1.5haで試験的に造成が始められており、将来的にはヨシ原はさらに拡大される予定です。



高水敷を既存のヨシ原と同じ高さまで掘削し、新たにヨシ原を造成している。



ヒヌマイトトンボは、主に河口付近の真水と海水が混じる汽水域のヨシ群落などに生息する。日本産のトンボ類のなかでも特異な環境を必要とする種なだけに、生息環境の悪化や消滅は、絶滅に直接的に結びついている。